

米の“テロに対する世界的戦争”、アルカーイダと IS 集団

【訳者注】これはかなり長い論文だが、チョストフスキーがすでに言っていることに新事実を補ったもので、使っている写真なども重複しているものが多いので、翻訳は肝心の要点となる序文だけに留めた。Cf. [テロリストはアメリカ.pdf](#) ; [9.11 リーダー\(序文\) .pdf](#)

NHK テレビで、IS 過激派集団のナゾを説明しようとする番組（「ニュース深読み」）があったが、ここに言われているような観点は抜け落ちていた。これは故意によるものかどうかはわからないが、これがあって初めて IS 集団のナゾが解けるはずなのである。

By Prof. Michel Chossudovsky

Global Research, March 1, 2015



Introduction

アメリカとその同盟国は、人類の将来を脅かす軍事的冒険に突入した。米軍と NATO 軍が、ウクライナを含む東欧に展開されている。人道的使命という名の下でのアメリカの軍事介入が、サハラ以南の地域で進行中である。アメリカとその同盟国が、オバマ大統領の“アジアへの軸足転換”政策によって中国を脅かしつつある。

アメリカの“テロとの戦い”とは、ニセの反テロリズム計画の下での、世界制覇プロジェクトであり、これは“西側文明を脅かす”アルカーイダを追い回すことにある。

大っぴらな軍事行動と、ひそかな情報作戦が、中東、東欧、サハラ以南アフリカ、中央アジア、および極東で、同時に展開されつつある。アメリカの軍事アジェンダは、大きな劇場的軍事行動と、主権国家を不安定化するように仕組まれた密かな行動を、組み合わせたものである。

グローバルな軍事アジェンダの下では、アフガニスタン、パキスタン、パレスチナ、ウクライナ、シリア、およびイラクにおいて、西側軍事同盟（米-NATO-イスラエル）が取る行動は、軍事的ヒエラルキーの最高レベルにおいて調整されている。

我々が扱っているのは、一つひとつの軍事的および情動的作戦行動ではない。2014年7～8月のイスラエル軍によるガザ攻撃は、アメリカとNATOとの密接な相談のもとで実行された。ウクライナでの戦闘行動とそのタイミングは、ガザ、シリア、イラクへの攻撃行動と合わせられている。

軍事的企てはまた、経済戦争のプロセスと緊密に調整されており、それは主権国家に制裁を課することだけでなく、敵の国家経済を崩壊させる目的をもった、金融および通貨市場の不安定化という意図的な行動からなっている。

この記事における我々の分析は、主として、アメリカは“テロに対する世界的戦争”を行っているという神話を、否定することが目的である。アメリカ合衆国が“テロリズムの国家スポンサー”であり、IS 過激派集団を敵とするキャンペーンが、地球征服戦争を一般人の目に正当化するために、アメリカとその同盟国が使っている煙幕だということを確認する証拠はいくらでもある。（強調は訳者）

“テロに対する地球的戦争”はコンセンサスになった。それは戦争プロパガンダの一部である。それはまた、“反テロ”法制化を正当化し実現するために、西側政府の用いるものである。それはムスリムを敵とする西側の、悪魔化キャンペーンの礎石をなすものである。

“テロとの世界的戦い”はまた、諸国家がその主権を手放すように仕向ける“経済的征服”のプロセスを、支えるものだと理解すべきである。

彼らの国家経済は“外国の投資家によって乗っ取られている”。

彼らの資産は没収され、緊縮財政措置が強要され、ウォール街とブレトン・ウッズ体制の舵のもとで、マクロ経済の再構築のプロセスが実行される。

アメリカをスポンサーとするテロは、国家社会の内部で党派的分裂を引き起こす。

諸国家は貧困化され不安定化される。国家の諸機関は、アメリカの先導する征服戦争の一部として覆される。

歴史的検証も含めて、この論文で示される証拠は、“大嘘”を十分に明らかにすることを意図している。

間違いなく、“テロに対する世界的戦争”は作り事である。アメリカ合衆国は、“ナンバーワン”のテロリズム国家スポンサーである。

(ミシェル・チョストフスキー、フィリッピン大学、UP-Cebu)